

ISQI.CTFL-PT_D.v2024-11-07.q15

試験コード:	CTFL-PT_D
試験名称:	ISTQB Certified Tester Foundation Level - Specialist Performance Testing
認定資格:	ISQI
無料問題数:	15
バージョン:	v2024-11-07
アクセス数:	174
ページビュー数:	150
https://www.jpnpdf.com/ISQI.CTFL-PT_D.v2024-11-07.q15-mondaishu.html	

最新問題: 1

パフォーマンス テスト実行の主なアクティビティは何ですか？

1. 環境のあらゆる部分を監視します。
2. 負荷生成および監視ツールの設定。
3. テストに関連するすべての結果と情報を収集し、保存します。
4. 負荷プロファイルに従って SUT に対して負荷を生成します。
5. テスト スクリプトをパラメーター化します。
6. テスト対象システムをセットアップします。

オプションを1つ選択

- A. パフォーマンス テスト アクティビティは次のとおりです: III、IV。
B. パフォーマンス テスト アクティビティは次のとおりです: I、III、IV。
C. パフォーマンス テスト アクティビティは次のとおりです: I、V、VI。
D. パフォーマンス テスト アクティビティは次のとおりです: I、III、VI。

Answer: B ([メッセージを残す](#))

パフォーマンス テスト実行の主なアクティビティは次のとおりです。

- * I. 環境のすべての部分の監視: さまざまなコンポーネントからパフォーマンス メトリックが収集され、システムのパフォーマンスの包括的なビューが提供されるようにします。
- * III. テストに関連するすべての結果と情報を収集して保存する: パフォーマンス テストの結果を分析し、改善すべき領域を特定するために不可欠です。
- * IV. 負荷プロファイルに従って SUT に対する負荷を生成: 予想されるユーザー負荷をシミュレートして、通常時およびピーク時の条件下でのシステムのパフォーマンスを評価します。

これらのアクティビティは、効果的なパフォーマンス テストの重要な要素として徹底した監視、データ収集、負荷生成を強調する ISTQB ガイドラインに準拠しています。

最新問題: 2

次のオプションのうち、パフォーマンス テストの結果を集約する利点ではないものはどれですか。

オプションを1つ選択

- A. さまざまな関係者が、特定のビジネス プロセスがエンドツーエンドで実行される速度を確認できます。
- B. パフォーマンスの傾向を特定できる
- C. パフォーマンス メトリックをわかりやすい方法でレポートできます。
- D. ビジネスおよびプロジェクトの関係者は、システム パフォーマンスの全体的なステータスを確認できます。

Answer: D ([メッセージを残す](#))

パフォーマンス テストの結果を集約すると、パフォーマンスの傾向を特定し、わかりやすい方法でメトリックをレポートし、関係者に特定のビジネス プロセスの速度に関する洞察を提供できます。ただし、システム パフォーマンスの全体的なステータスが提供されるとは限りません。代わりに、詳細なメトリックと傾向に重点が置かれます。ISTQB ガイドラインでは、パフォーマンス メトリックを明確に提示することの重要性を強調していますが、集約されたデータはシステム全体のパフォーマンスの包括的なステータスの概要にはならないことを認識しています。

最新問題: 3

シナリオ

ジェームズは、さまざまな種類のイベントのチケットを販売するための Web ポータルを開発するプロジェクトに参加しています。

販売が行われ、支払いチャネルによって確認されると、その情報は、最大 2 秒以内に、他の種類のユーザー (各イベントの管理者など) に提供される必要があります (この時間的制約は、トランザクションの 95% で満たされ、トランザクションの 90% が 100% 完了することが予想されます)。

チケットの販売は、事前に告知された時間枠 (開始日時 終了日時) 内に行われます。この時間枠の開始時には、5 分間、1 分あたり 150 人のユーザーがピークに達します。

質問

ジェームズがパフォーマンス目標を達成できるようにするオプションを選択します。

オプションを1つ選択

- A. 応答時間の受け入れ基準を確立します。
- B. 運用データベースに登録されているユーザーの合計数に対応するベースラインを作成します。
- C. ピーク時の出席者数のベースラインを設定する必要はありません。これは既知の値です。
- D. チケット取引の最大出席者数のベースラインを作成します。

Answer: ([解答を表示する](#))

最大出席者数のベースラインを作成すると、システムがピーク負荷を処理できることが保証されます。このベースラインはパフォーマンス テストの参照ポイントとして機能し、James は予想されるピーク条件下でのシステムの動作をシミュレートして測定できます。これにより、指定された時間制限内で 1 分あたり 150 人のユーザーを処理するというパフォーマンス目標をシステムが満たしていることを確認できます。このようなベースラインを確立することは、ISTQB ガイドラインで強調されているように、パフォーマンス テストの基本的な方法です。

最新問題: 4

パフォーマンス テストの特定のテスト条件は、テスト プロセスのどのアクティビティで識別されますか？

オプションを1つ選択

- A. テスト計画。
- B. 監視と制御をテストします。
- C. テスト分析。
- D. テスト設計。

Answer: ([解答を表示する](#))

テスト プロセスでは、テスト分析フェーズでパフォーマンス テストの特定のテスト条件が特定されます。このフェーズでは、要件、アーキテクチャ、設計などのテスト ベースをレビューおよび分析して、1 つ以上のテスト ケースで検証できるコンポーネントまたはシステムの項目またはイベントであるテスト条件を特定します。

参照：

- * ISTQB 基礎レベル シラバス
- * ISTQB用語集

最新問題: 5

パフォーマンス テストがリモート アクセスを介して接続されるアプリケーションの応答時間をテストする場合、どのプロトコルが使用されていますか？

オプションを1つ選択

- A. MMS。
- B. RTE。
- C. WSCL。
- D. LDAP。

Answer: ([解答を表示する](#))

RTE (リモート ターミナル エミュレーション) プロトコルは、リモート アクセスを介して接続されたアプリケーションの応答時間をテストするときに使用されます。ネットワーク経由でのアプリケーションとのやり取りを、ローカルでアクセスされているかのようにシミュレートするため、リモート アクセスのシナリオに適しています。

参照：

- * ISTQB パフォーマンステスト シラバス

* ISTQB用語集

最新問題: 6

(基本シナリオ 2 を参照): 基本シナリオ 2 を参照する場合は、説明のみを参照し、変更は加えません。

質問固有の制約: (固有の制約は基本シナリオの一部ではなく、この質問に固有のものです)。

ナタリーはパフォーマンス テスト サイクルを実行しました。次のメトリックが収集されました。

仮想ユーザー総数: 10,000。

* シミュレートされたユーザーのステータス。

o すべての取引が完了したユーザーの合計数: 89%。

* トランザクション応答時間、o チェックイン

* 応答時間 < 1 秒: 60%

* 応答時間 < 2 秒: 70%

* 応答時間 < 3 秒: 88%

* 応答時間 < 5秒: 90%

* 応答時間 < 10 秒: 95%

質問

この情報を踏まえて、ナタリーは関係者に結果をどのように提示すべきでしょうか？

オプションを1つ選択

A. 完了したトランザクションの割合が許容値に非常に近いため、改善は必要ありません。チェックインに関連付けられたトランザクションは許容値を下回っているため、最低限の改善が必要です。

B. 完了したトランザクションの割合が許容値に近いため、改善が必要です。チェックインに関連付けられたトランザクションは許容値に近いため、改善は必要ありません。

C. 完了したトランザクションの割合が許容値に近いため、改善は必要ありません。チェックインに関連付けられたトランザクションは許容値を下回っているため、改善は必要ありません。

D. 完了したトランザクションの割合が許容値に近づいているため、改善が必要です。チェックインに関連付けられたトランザクションが許容値を下回っているため、改善が必要です。

Answer: D (メッセージを残す)

パフォーマンス テストの結果を提示する際には、収集したメトリックを事前に定義された受け入れ基準と比較し、改善が必要な領域を強調することが重要です。

* オプション A は、受け入れ値が満たされていない場合でも、完了したトランザクションに対して改善は不要であると誤って示唆しています。

* オプション B では、完了したトランザクションには改善が必要であると正しく述べていますが、チェックイン トランザクションには改善は不要であると誤って示唆しています。

* オプション C は、どちらのメトリックも改善の必要がないことを示唆していますが、両方とも許容値を下回っているため、これは誤りです。

* オプション D は、完了したトランザクションの割合とチェックイン トランザクションの両方が許容値を下回っており、改善が必要であることを正しく識別します。

したがって、オプション D は、受け入れ基準を満たすために両方のメトリックを改善する必要があることを正確に反映しています。

最新問題: 7

次のオプションの 1 つは、モバイル アプリケーションにおける特定のパフォーマンス リスクですか？

一つの選択肢

- A. ネットワークの輻輳。
- B. センサーからのデータフローが遅いです。
- C. リソースが限られています。
- D. アルゴリズムの非効率的な実装。

Answer: C ([メッセージを残す](#))

モバイル アプリケーションは、CPU、メモリ、バッテリー、ネットワーク帯域幅など、モバイル デバイスで利用できるリソースが限られているため、パフォーマンス上のリスクに直面することがよくあります。これらの制約はモバイル アプリケーションのパフォーマンスに大きな影響を与え、応答時間が遅くなり、ユーザー エクスペリエンスが低下する可能性があります。ISTQB パフォーマンス テスト ガイドラインでは、包括的なパフォーマンス評価と最適化を確実に行うために、モバイル環境の特定のリソース制限を考慮することを強調しています。

最新問題: 8

パフォーマンス テストにおけるトランザクション ネストの利点は何ですか？

オプションを1つ選択

- A. 負荷に応じて応答時間の変化を測定する可能性。
- B. 個々のアクティビティと集計されたアクティビティを測定する機能。
- C. トランザクションの経過時間を測定する可能性。
- D. 実際のユーザーがいつアクションを実行したかをより正確に表すために、反映時間を測定する機能。

Answer: ([解答を表示する](#))

トランザクション ネストにより、パフォーマンス テスターはトランザクション内の個々のアクティビティとトランザクション全体の総合的なパフォーマンスの両方を測定できます。これは、パフォーマンスの問題が発生する可能性のある特定の領域を特定するのに役立ちます。詳細なパフォーマンスと全体的なパフォーマンスの両方を理解することで、テスターはボトルネックをより正確に特定し、システムを最適化できます。これは、システムの信頼性と効率性を確保するための包括的なパフォーマンス測定と分析という ISTQB の原則と一致しています。

最新問題: 9

基本シナリオ 2: この基本シナリオ 2 は、この試験全体の 8 つの質問に使用されます。基本シナリオ 2 を参照する場合は、この説明のみを参照し、変更は行いません。

ナタリーは、大手国際航空会社向けのオンラインチェックイン管理ソフトウェアを開発する会社で働いています。

搭乗時刻の24時間前から1時間前まで、オンラインチェックインをご利用いただけます。

登録が顧客とシステムによって確認されると、その情報は最大 3 秒以内に他の種類のユーザー (フライト マネージャーなど) に提供される必要があります (この時間的制約はトランザクションの 90% で満たされ、トランザクションの 90% が 100% 完了することが期待されます)。

チェックイン ウィンドウの開始時には、1 分間に 1 分あたり 100 人のユーザーというピークが発生します。

質問

次のオプションのうち、このプロジェクトに適したパフォーマンス関連のビジネス目標はどれですか?

オプションを1つ選択

A. ピークがシステムの処理能力を超える値を超えてはならないことを考慮して、システムは、パフォーマンスを低下させることなくチェックインにアクセスし、1 分間に 6,000 ユーザーを超えるピーク同時ユーザーをサポートできる必要があります。

B. スケジュールが重複するフライトは 2 つまでしか存在しないことを考慮して、システムはピーク時の 1,000 人のユーザーに対応できる必要があります。

C. 航空機群には中型機がかなりの割合で含まれる可能性が高いため、搭乗券の発行には 1 秒以内の応答時間で 200 人の同時ユーザーをサポートできる必要があります。

D. 乗客のチェックインデータを更新するには、2,000 人の同時ユーザーに対して最大 3 秒で完了する必要があります。

Answer: A (メッセージを残す)

ピーク ユーザー アクティビティを伴うオンライン チェックインのシナリオでは、パフォーマンス関連のビジネス目標として最も適しているのは、システムがパフォーマンスを低下させることなく、短期間で多数の同時ユーザーを処理できるようにすることです。オプション A は、指定されたピークである 1 分あたり 100 ユーザーに合わせて、システムパフォーマンスを維持しながらピーク負荷をサポートするという要件に直接対応します。

参照：

* ISTQB パフォーマンステスト シラバス

* ISTQB用語集

最新問題: 10

ランプアップコンセプトの有効な説明を選択してください。

オプションを1つ選択

A. 定常状態に到達する段階。

- B. テストを終了する段階。
- C. 同時ユーザー数の増加により定常状態から抜け出す段階。
- D. システムの負荷を最短時間で一定の値まで増加させる手法。

Answer: C (メッセージを残す)

パフォーマンス テストにおけるランプアップとは、仮想ユーザーの数を徐々に増やして、システムの負荷の増加をシミュレートするフェーズを指します。これは、さまざまなレベルのストレス下でシステムがどのように動作するかを判断するために不可欠です。ランプアップの概念の正しい説明はオプション C と一致しており、同時ユーザー数を増やして、定常状態から高負荷シナリオへの移行をシミュレートします。

参照：

- * ISTQB パフォーマンステスト シラバス
- * ISTQB用語集

最新問題: 11

次のオプションのうち、パフォーマンス テストの原則を表すものはどれですか。
オプションを1つ選択

- A. テストは、さまざまな利害関係者グループ、ユーザー、特にシステム設計者と運用スタッフの定義された期待と一致している必要があります。
- B. テストは、リソースが許す限り、実稼働システムを代表する完全なシステムとテスト環境でのみ実行できます。
- C. テストは再現可能でなければなりません。変更されていないシステムでテストを繰り返すことで、同一の結果が得られなければなりません。
- D. テストでは、理解しやすく、技術チームが望む要件と容易に比較できる結果が得られる必要があります。

Answer: C (メッセージを残す)

再現性はパフォーマンス テストの基本原則であり、変更されていないシステムでテストを繰り返したときに、同一の結果が得られることを保証します。この原則は、パフォーマンス テストの結果の信頼性と一貫性を検証するために重要であり、テスト担当者がパフォーマンスの問題を自信を持って特定して対処できるようにします。ISTQB 標準では、パフォーマンス テストが正確で実用的な洞察を提供することを保証するために、再現性を重視しています。

最新問題: 12

動的パフォーマンス テスト中に時間の経過と共にシステムの応答が低下する可能性のある原因を特定するオプションを選択します。

1. ディスクの断片化。
2. ネットワーク遅延。
3. ファイル リポジトリの増加。
4. メモリリーク。

5. データベース設計が不十分。

オプションを1つ選択

A. 正しい選択肢: I、III、IV。

B. 正しい選択肢: II、III、IV。

C. 真のオプション: II、III、V。

D. 真のオプション: I、II、IV。

Answer: ([解答を表示する](#))

* ディスクの断片化 (I) により、断片化されたファイルを読み取るためにディスクの負荷が増大し、データの取得時間が遅くなる可能性があります。

* ファイル リポジトリの増大 (III) により、管理および取得する必要があるデータの量が増加し、応答時間が遅くなる可能性があります。

* メモリ リーク (IV) により、使用可能なメモリが徐々に消費され、タスクの処理に使用可能なメモリが減少するため、システム パフォーマンスが低下します。

ネットワーク遅延 (II) と不適切なデータベース設計 (V) もパフォーマンス低下の潜在的な原因ですが、この文脈では、オプション I、III、および IV が、時間の経過に伴う応答時間の段階的な低下に最も直接的に関連しています。この理解は、ISTQB 資料に概説されている一般的なパフォーマンス テストの実践によって裏付けられています。

最新問題: 13

パフォーマンステストスクリプトの構造に関する最も適切な説明を選択してください。1つのオプションを選択してください

A. 初期化セクションは、メイン部分の準備がすべて整うセクションです。アクションを繰り返す必要がある場合は、スクリプト全体またはその一部を繰り返す必要があるため、メインセクションは 1 回だけ実行されます。クリーンアップセクションは、テストを正しく終了するために必要な手順が実行されるセクションです。

B. クリーンアップ セクションは、メイン部分の準備がすべて整うセクションです。前提条件に準拠するために、メイン セクションは複数回実行でき、完了セクションは、対応するリポジトリに結果を記録するセクションです。

C. 初期化セクションは、メイン部分の準備がすべて整うセクションです。メインセクションは複数回実行でき、終了セクションは、対応するリポジトリに結果を登録するセクションです。

D. 初期化セクションは、メイン部分の準備がすべて整うセクションです。メインセクションは複数回実行でき、クリーンアップセクションは、テストを正しく終了するために必要な手順が実行されるセクションです。

Answer: D ([メッセージを残す](#))

パフォーマンス テスト スクリプトは通常、次の 3 つの主要セクションで構成されます。

* 初期化: このセクションでは、前提条件を設定し、主要なテスト アクションのためにシステムを準備します。これにより、環境とテストが実行可能な状態であることを確認します。

- * **メイン セクション:** ここでコア テスト アクションが実行されます。これらのアクションは複数回実行され、さまざまな負荷やシナリオをシミュレートできます。
 - * **クリーンアップ:** このセクションには、リソースの解放、状態のリセット、結果のログ記録など、テストを適切に終了するための手順が含まれています。
- この構造により、ISTQB パフォーマンス テスト標準で強調されているように、パフォーマンス テストが体系的かつ効率的に実行されることが保証されます。

最新問題: 14

基本シナリオ 1: この基本シナリオ 1 は、この試験全体で 2 つの質問に使用されます。基本シナリオ 1 を参照する場合は、この説明のみを参照し、変更は行いません。

多層アーキテクチャを持つ管理ソフトウェアの開発プロジェクトでは、ユーザーが国内外の複数の場所にソフトウェアをインストールできるようになります。各インストールは独立して動作し、選択的に他のインスタンスと通信できます。各インストールは高い処理能力を備えている必要があります。

質問固有の制約: (固有の制約は基本シナリオの一部ではなく、この質問に固有のものです)。

- * プロジェクトは順次開発ライフサイクル モデルに従います。

質問

プロジェクトにおいてパフォーマンス リスクを分析および評価する適切なタイミングはいつでしょうか？

オプションを1つ選択

- A. 設計後、コーディング前。
- B. 要件アクティビティ中、およびパフォーマンス テストを実行する前に再度実行します。
- C. 分析および設計アクティビティ中、および各パフォーマンス テスト サイクルの前にも実行されます。
- D. 開発フェーズ (要件アクティビティを含む) およびパフォーマンス テスト自体を通じて繰り返し実行されます。

Answer: D ([メッセージを残す](#))

パフォーマンス リスクは、特に処理能力が高く、複数の場所で独立して運用されるプロジェクトでは、開発ライフサイクル全体を通じて継続的に分析および評価する必要があります。この継続的な評価により、リスクを早期に特定して軽減し、開発中に発生する変更に適応することができます。

参照：

- * ISTQB パフォーマンステスト シラバス
- * ISTQB 上級レベルテストマネージャシラバス

最新問題: 15

パフォーマンス テストの準備の一部ではないアクティビティを特定します。

オプションを1つ選択

- A. 環境をデプロイしています。

- B. テスト対象システムをセットアップします。
- C. 負荷生成および監視ツールを設定し、必要な情報がすべて収集されることを確認します。
- D. サーバーを仮想化します。

Answer: ([解答を表示する](#))

サーバーの仮想化は、通常、パフォーマンス テストの準備の一部ではありません。パフォーマンス テストの準備には、テスト環境の展開、テスト対象システムのセットアップ、正確なデータ収集を保証するための負荷生成および監視ツールの構成などのアクティビティが含まれます。仮想化は全体的なインフラストラクチャ セットアップの一側面となる場合がありますが、パフォーマンス テストの準備における直接的なステップではありません。ISTQB パフォーマンス テスト ガイドラインでは、パフォーマンス テストの実行に特化した環境、システム、およびツールのセットアップが強調されています。

Valid CTFL-PT_D Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing CTFL-PT_D Exam! GoShiken.com now offer the **newest CTFL-PT_D exam dumps**, the GoShiken.com CTFL-PT_D exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com CTFL-PT_D dumps with Test Engine here: https://www.goshiken.com/ISQI/CTFL-PT_D-mondaishu.html (42 Q&As Dumps, **30%OFF Special Discount: Freepdfdumps**)